

台風第19号等におけるドローンの活用

～見てきた課題と今後のさらなる活用に向けて～

1. ドローン導入の目的

- 災害対応**(迅速な状況把握)
東日本大震災や新潟・福島豪雨、関東・東北豪雨などが背景
- 維持管理**(インフラの適切な維持管理)
道路延長: 5,740km(全国3位)、河川延長: 4,642km(全国4位)
- 情報発信**(実施事業の広報)
復興事業など様々な事業を県内各地で実施

11機配備
(8建設、1土木、2港湾)



<ドローン配備事務所>

2. 台風第19号等におけるドローンの飛行実績

- 飛行実績
 - 飛行回数 **78回**
 - 飛行時間 **13時間**
 - 撮影対象 4路線(国道115号 外)、17河川(宇多川、小泉川 外)、2ダム(木戸ダム、高柴ダム) 外
- 主な撮影箇所
 - 宇多川・小泉川(相馬市南飯渕)

- ・台風通過翌日に飛行が可能
- ・複数の破堤箇所を早期把握
- ・広範囲な浸水エリアを確認
- ・撮影位置を固定(対比)



② 国道115号(相馬市山上)



③ 高柴ダム(いわき市川部町)



3. ドローン活用の成果と課題

成果

- 機動性・迅速性**
速やかに飛行が可能
- 広い撮影範囲**
局所～大局まで幅広く撮影が可能
- 安全性**
操縦者等の安全を確保

課題

- 飛行体制(人員)の確保**
ライセンス所有者の確保が難しい
- 災害時の活用方法が不明確**
・効果的な活用方法が分からない
・そもそも災害時の活用を考えていない

改善案

- ・ライセンス所有者の分散(ドローン調査隊の組織)
- ・飛行体制の緩和
- ・職員の理解醸成によるドローン活用環境の整備
- ・活用事例の共有 など

4. さらなる活用に向けて

- ドローンを**知る**(OJT等で理解を広める・深める)
- 活用しやすい**ルール**や**環境**の整備(飛行体制の検討、活用方法の手引きなど)
- 活用を**共有**する仕組みづくり(県内外の活用事例の収集・共有)

